

# 分析レポート

## 2017年組合員モニター調査からみえる女性のワークライフバランスの満足度

研究員 近本 聡子

### 【概要】

今回は当研究所のワークライフバランス研究会立ち上げの準備に向けて2017年に実施した「あなたの働き方と、生協職員に関するアンケート」から組合員の働き方について紹介する。この調査は日本生協連の組合員モニター4664名を対象に2017年4月に実施した。回収は3722件で回収率は79.8%となっている。組合員のライフワークバランスの状況、生協組合員からみた生協職員の働き方についてのイメージなどを調査した。調査から得られた主な知見は下記の2点である。

- 1) 現状のワークライフバランスの状況に「満足している」が割合としては最も大きく、回答者全体の46.3%を占める。ただし、正規雇用、準正規雇用の回答者では「満足している」の割合が低いなど、労働条件によって、ワークライフバランスの満足度には大きな違いがある。
- 2) 理想の労働時間として最も回答が多かったのは1日当たり「4時間」であった。ただし、フルタイムで就労している回答者は7~8時間を理想の労働時間として挙げる割合が大きいなど、労働時間の希望は回答者によって大きく異なる。

## 1. 組合員の働く時間

### 1) 2017年当時の働き方と働く時間

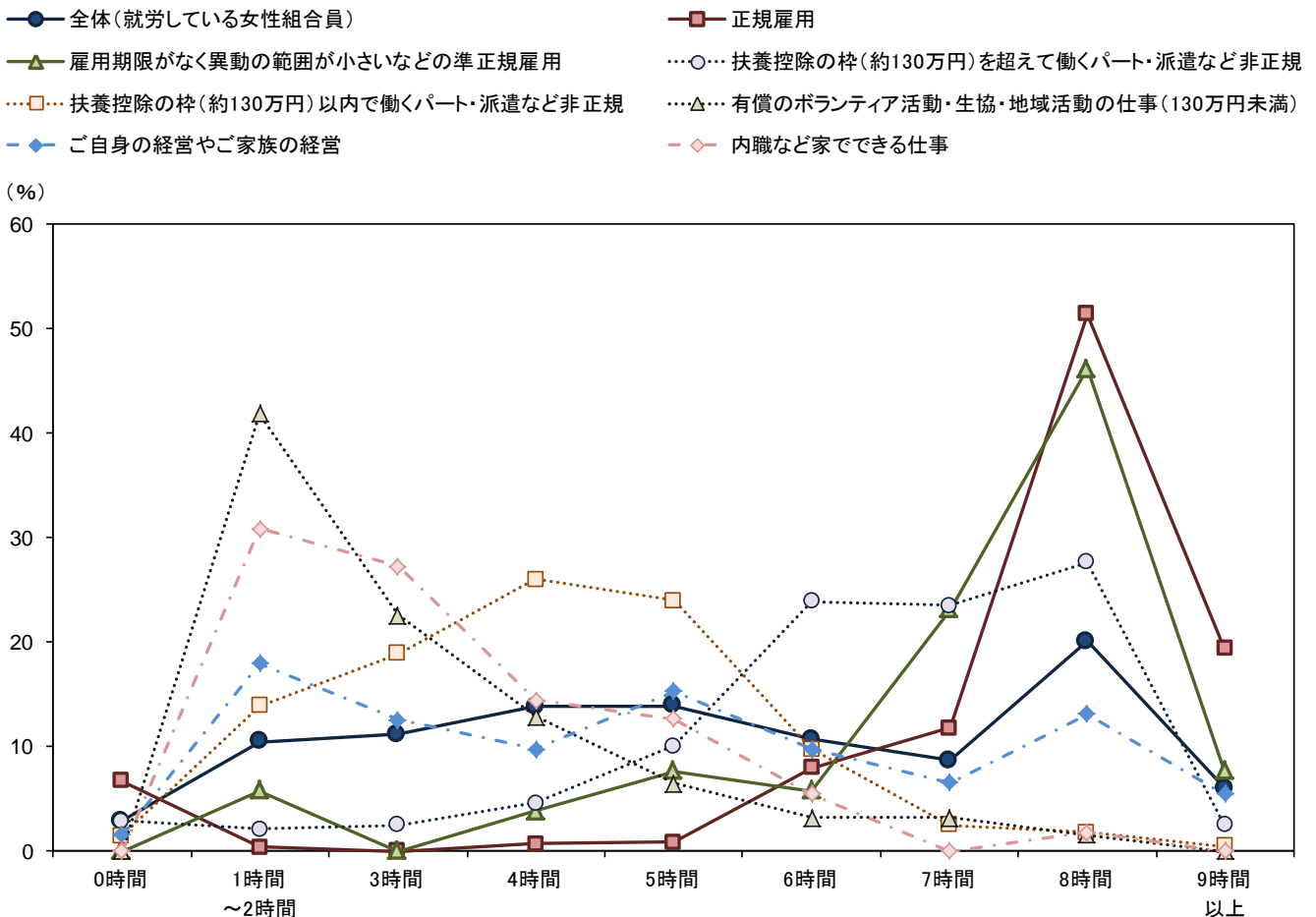
日本生協連の組合員モニター4664名を対象に配信した「あなたの働き方と、生協職員に関するアンケート」では、回答者3722名のうち、女性が96.7%を占める。また、男性と女性では働き方が大きく異なることから、以降では男性を除き、女性に分析対象をしぼっている。直近1年間で賃金を伴う仕事に就いているのは女性組合員の51.8%であり、その働き方を示したのが図表1である（無回答除く）。

●図表1 女性組合員の働き方

カテゴリ	回答者数	比率(%)
正規雇用	451	24.3
雇用期限がなく異動の範囲が小さいなどの準正規雇用	52	2.8
扶養控除の枠(約130万円)を超えて働くパート・派遣など非正規	240	12.9
扶養控除の枠(約130万円)以内で働くパート・派遣など非正規	757	40.7
有償のボランティア活動・生協・地域活動の仕事(130万円未満)	62	3.3
ご自身の経営やご家族の経営	183	9.8
内職など家でできる仕事	56	3.0
答えたくない	30	1.6
その他	28	1.5
合計	1859	100.0

次に、働き方別に労働時間を整理したものが図表2である。非正規雇用のうち、扶養の範囲内で働いている女性と、扶養の範囲を超えて働いている人では労働時間の分布がまったくことなっている。また、正規職員や準正規職員は8時間を山とした分布である。

●図表2 働き方別にみた女性組合員の仕事の時間（1日あたり）

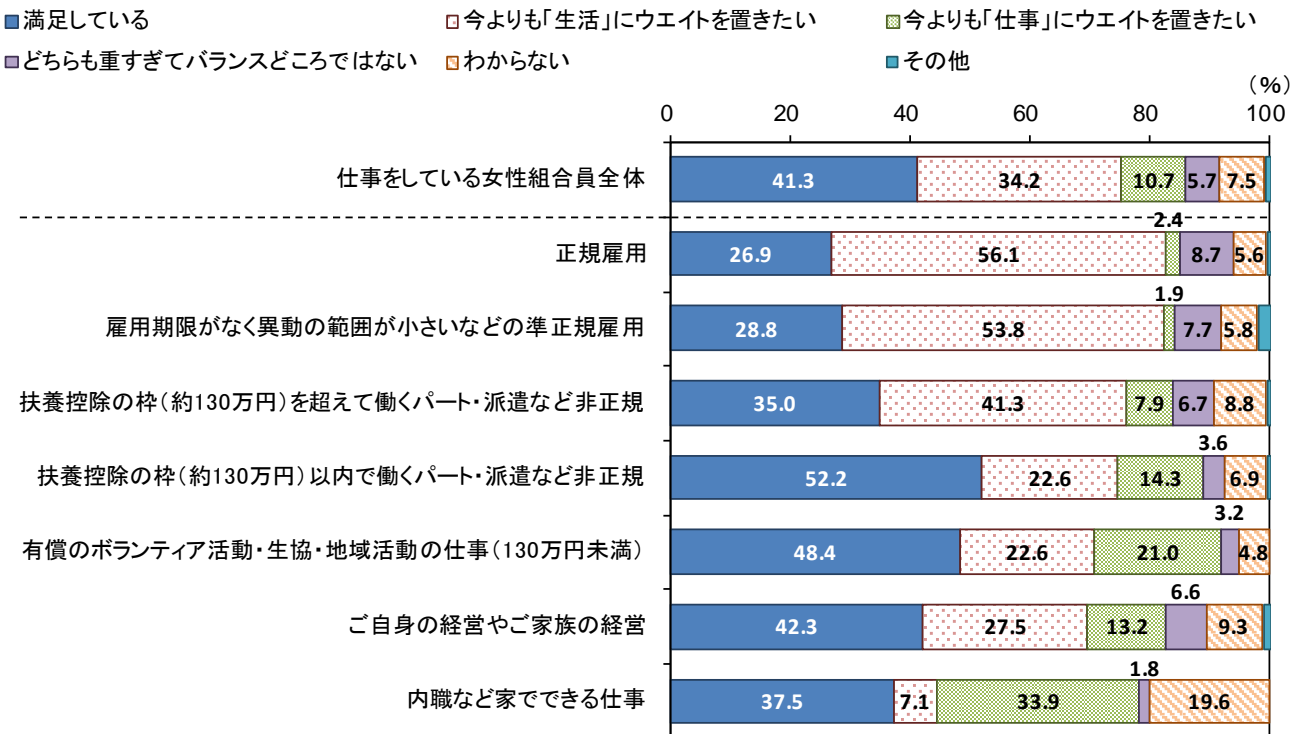


## 2) 満足度比率の異なる働き方や働く時間

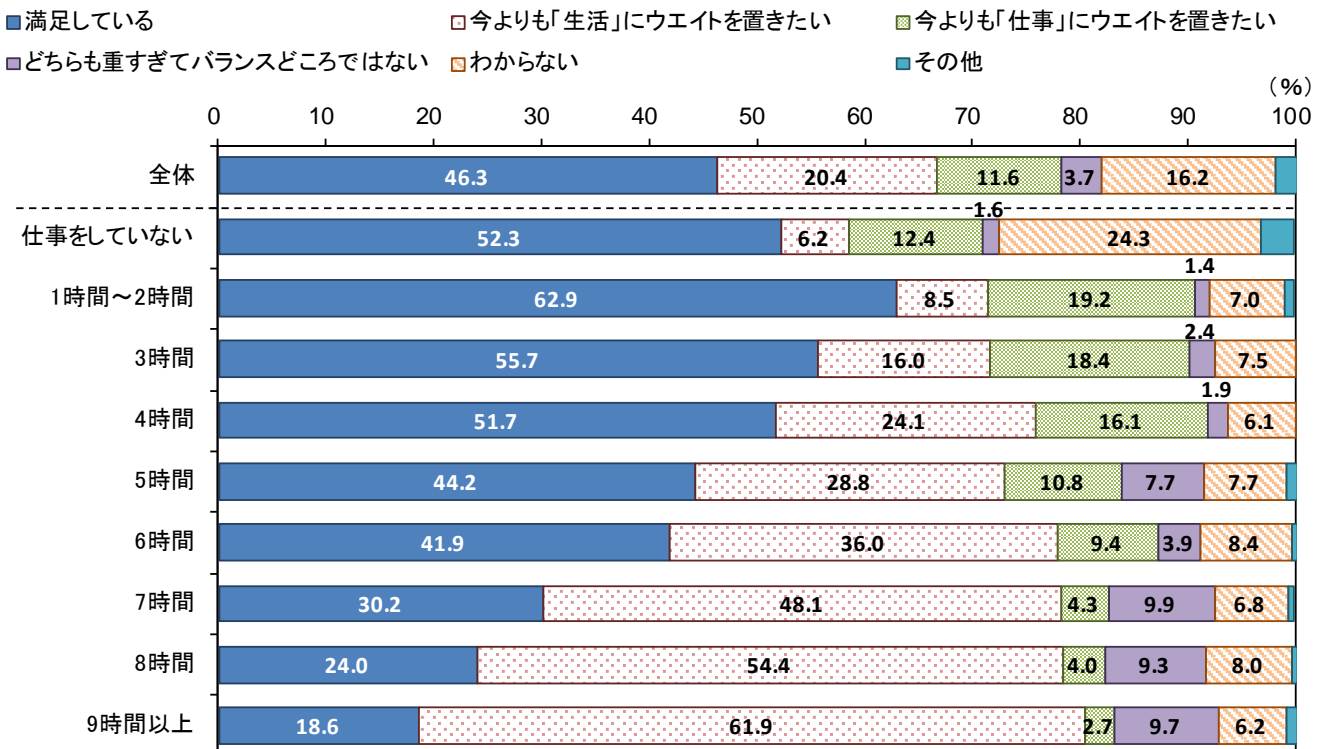
では、働き方と生活のバランス（以下、ワークライフバランス）の満足度はどうだろうか。仕事をしている女性組合員ではワークライフバランスについて「満足している」と回答したのは41.3%であった（図表3）。しかし、働き方別にみると満足度は異なり、非正規で扶養控除内の働き方の人では52.2%が「満足している」と回答しているが、その割合は扶養控除の枠を超えて働く非正規の人では35.0%であり、正規・準正規の人では3割未満である。正規・準正規、扶養控除の枠を超えて働く非正規の人では「今よりも“生活”にウェイトを置きたい」という割合が大きいが、一方で、内職をしている人は「今よりも“仕事”にウェイトを置きたい」という割合が大きくなっている。

図表4は、男性組合員や仕事をしていない女性組合員も含めた上で、労働時間によるWLB満足度の分布をみている。労働時間が長いほど「満足している」割合は小さくなり、「今よりも“生活”にウェイトを置きたい」を置きたい割合が高くなる。一方、労働時間が短い層では「満足している」割合が高いものの、「今よりも“仕事”にウェイトを置きたい」を置きたいという割合も比較的高い。

●図表3 働き方別にみたワークライフバランス満足度（仕事をしている女性組合員）



●図表4 現在の1日あたり労働時間別にみたワークライフバランス満足度（回答者全体）



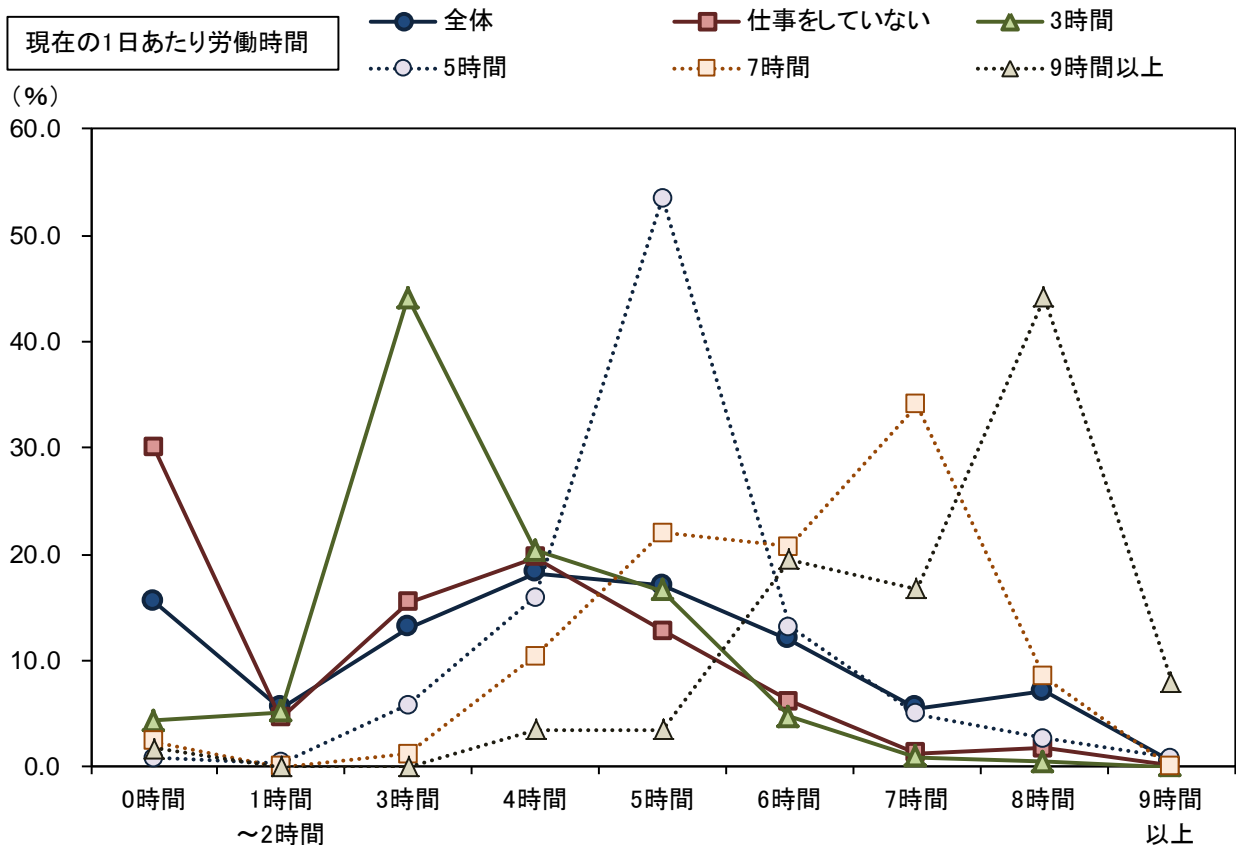
## 2. 理想とする労働時間は何時間だろうか

図表5は、男性組合員や仕事をしていない女性組合員も含めた上で、現在の1日当たりの労働時間と「理想」の労働時間の関係を示したものである。理想の労働時間を訪ねたところ、回答者全体では「4時間」が最も多く18.2%、次点の「5時間」が17.0%という結果であった。

現在の労働時間は「理想の労働時間」を規定しており、現在と理想の労働時間が一致している比率が高いことが分かる（自身の生活状況に合わせて労働選択をしているためと考えられる）。そのため、現在の労働時間が3時間の人が、6~8時間のようなフルタイムに相当する時間を、理想の労働時間とする割合は決して高くない。現実の事例に当てはめれば、パート労働の人に正規職員になるよう勧めても、なり手が非常に少ないということになる。

また分布の傾向として、現在の労働時間が3時間など比較的短時間の場合、4時間、5時間など現在より長めの労働時間を理想とする割合が高い傾向にある。一方、現在の労働時間が7時間や9時間以上といった比較的長時間の場合、現在より少し短めの労働時間を理想とする割合が高い傾向にある。

●図表5 現在の1日あたり就労時間別にみた理想の労働時間（回答者全体）



※現在の1日あたり労働時間が、1~2時間、4時間、6時間、8時間である回答者について、図表5中では省略している。

### 3. おわりに

今回の調査では、特に女性において、現在の労働時間と理想の労働時間が一致する傾向があることが示されたが、その一方で、長時間働く人の中には現在より短めの労働時間を理想とする人が存在し、短時間働く人の中にも現在より長めの労働時間を理想とする人が存在することが示されている。人手不足のなかで、女性が社会進出しつつ、ワークシェアを進めていく余地は十分にあると考えられる。

また、労働時間の急激な変化は労働者にとって好ましいものではなく、短時間労働者の労働時間を長くするにしろ、長時間労働者の労働時間を短くするにしろ、段階的な措置が求められる。

本件に関するお問い合わせは、当研究所研究員 近本聡子までお願いいたします。

Tel : 03-5216-6025

Mail : satoko.chikamoto★★jccu.coop (★★はアットマークに変換してください)

- ・本資料は個人の見解を示したものであり、研究所の見解を代表するものではありません。
- ・本資料は作成時点で当研究所が一般に信頼できると思われた情報に基づき作成しておりますが、内容の正確性および完全性を保障するものではありません。
- ・内容につきましては、社会情勢の変化等を踏まえて、変更される場合があります。